



まちたん

～まちのお宝探検隊～

後世に伝えたい宝物

～朝日編～

乗鞍登山道と八十八カ所地蔵尊

江戸時代安政6年、青屋村に生まれた上牧太郎之助は、乗鞍岳、千ヶヶ原の幽玄な景観に魅せられ、登山道を開くことを決意。

明治28年に、青屋登山口から

の乗鞍登山道(約20km)の整備に着手しました。

大正3年からは、寺澤登山口から乗鞍の大日岳山頂までの道筋に、登山者の安全祈願と道標を兼ね、88カ所、176体の石仏を安置しました。登山道開設に着手してから、実に39年の長い歳月を経た昭和8年、遂に登山道が完成しました。

しかし、近年は自動車で簡単に登山が出来るようになり、青屋登山口からの登山者も減少。中腹から山頂までの登山道は、

永年の風雪にさらされ荒廃が進んでいました。

地元住民はその惨状を憂い、平成13年から登山道復活事業を開始しました。現在、石仏176体のうち40余体は麓にあり、新たに地蔵堂を上牧氏の生家近くに建立して安置しています。



石仏を安置する地蔵堂



千町ヶ原と石仏



登山道筋の第五番石仏



八十八カ所第一番祠堂(寺澤登山口)

円空仏と枝垂れ桜

鉦はつりの木彫仏で知られる遊行僧円空は、江戸時代初期寛永9年に美濃の国に生まれ、若くして出家し諸国遊行の旅に出たとわれています。その足跡は日本各地におよび、その先々で多くの円空仏を残しています。



大廣子安観音堂の十一面観音像



万石薬師堂の薬師如来像

朝日町には、神社・寺院・祠など12カ所に24体の円空仏が確認されており、主に旧江戸街道沿いに点在しています。なお、この神像・仏像は文化財でもあり、普段は拝観することが出来ません。

また、円空仏を安置する多くの神社・寺院・祠の脇には、枝垂れ桜が植えられており、春には見事な



青屋神明神社の枝垂れ桜

花を咲かせ、往来の人々を楽しませていきます。各所の枝垂れ桜の根源は、青屋神明神社の枝垂れ桜と伝えられ、昭和初期から村人が、この桜の種を

悠久の自然

朝日町は、「枝垂れ桜の里」として春には桜でいっぱいになります。夏は、高冷地野菜の栽培やアウトドア活動。秋になると、ダム沿いの鮮やかな紅葉の美しさと周囲の景色のコラボレーションが生み出す絶景。冬には、極寒の寒さを逆手にとって表現した氷の芸術「氷点下の森」など四季を通じて見どころがいっぱい。

古来より受け継がれてきた文化財を守り伝え、美しい自然を大切に育てていく流れが今も朝日地域に根付いています。



浅井神明神社の枝垂れ桜



初夏に輝く乗鞍岳